

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和元年6月11日から令和元年10月23日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050222、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年 8月現在）

事業所名： (施設名) 長野市七二会保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課次長 広田 貴代美	定員（利用人数）：59名（32名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 平成17年4月9日
経営主体： 長野市	
所在地：〒381-3163 長野県長野市七二会己997番地	
電話番号： 026-229-2620	FAX番号： 026-229-2620
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員：11名 非常勤職員：4名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・子育て支援員 1名
	・保育主任 1名 ・看護師 1名
	・保育士 9名 ・給食調理員 2名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 1室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 3室 ・子育て支援相談室 … 1室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 3室 ・鉄棒 ・ブランコ ・コンビネーション遊具 ・砂場	

3 理念・基本方針

○長野市保育理念(保育所型認定子ども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

○七二会保育園保育目標

～楽しい保育園～

- あいさつをしよう
- よく遊び よく食べよう
- 自然に親しもう
- まずはやってみよう

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

七二会保育園は長野市が直接運営する 28 保育園(内休園 1 園)と 2 認定こども園のうちの一つで、平成 17 年 4 月に開設され、「七二会子育て支援センター」と「七二会ふれあい交流広場」が同じ建物内に併設されている。

当保育園の前身は昭和 33 年～昭和 39 年まで現在園のある瀬脇地区の忠恩寺に開設された季節保育所で、昭和 39 年 4 月に定員 50 名の七二会村の公立保育園、瀬脇保育園として認可され、同じ七二会地区の大安寺、笹平に開設されていた季節保育所も統合された。その後、七二会村が昭和 41 年 10 月、長野市、篠ノ井市等、2 市 3 町 4 村で昭和の大合併をしたことにより長野市に移管された。また、昭和 47 年には村山保育園を統合し、同年 5 月、現在地に瀬脇保育園としての新園舎が落成し移転した。更に、平成 16 年 3 月、京ヶ峯保育園との統合に際し、瀬脇保育園が休園となり、平成 16 年 4 月から平成 17 年 3 月までの間、休園中の瀬脇保育園を全面改築工事に入り、京ヶ峯保育園にて合同保育を行った。そして、平成 17 年 4 月 8 日に京ヶ峯保育園が閉園となり、翌日 4 月 9 日に名称を瀬脇保育園から七二会保育園と改称し、「七二会子育て支援センター」と「七二会ふれあい交流広場」を併設し開園となった。

七二会地区は長野市の西部にあり、市街地より約 15km の国道 19 号線沿線の南面の起伏に富んだ傾斜地にあり、縄文時代の終わりころから人々がこの地に住み、江戸時代には松代藩真田氏の領地となっていた。かつては養蚕地帯を中心に、酪農、雑穀作りが盛んであったが、都市化、工業化の進展する中で、兼業化が進み、現在道路網の整備、文化活動の興隆、生活環境の整備、地域の活性化等に住民自治協議会を中心に取り組んでいる。

当保育園はその国道 19 号線沿いの犀川に架かる明治橋のたもとにあり、近くには長野市商工会七二会支所、長野県土尻川砂防事務所、長野市消防局中央消防署七二会分署、JA ながのさいがわ営農・経済センターなどがあり、国道沿いにはコンビニやホームセンター、飲食店などもある。当保育園はその犀川沿いの市民運動場の隣にあり自然が豊かで、子どもたちの散歩や探索の場も多く、散歩のエリアもグラウンド、神社、お寺、公園などにも及び、散歩コースも年齢に合わせて幾つか設定されている。平成 30 年 10 月には「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在 2 年目に入っている。

こうした中、最近では保護者の勤務の都合で出退勤時の利便性の点で地区外から当保育園を選ぶ保護者も増えているという。当保育園から丘陵地を一段上がった長野市七二会支所の近くには園の多くの子どもたちが就学する七二会小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の中の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の音楽会や運動会に招かれ、また、見学をするなど、小学校 1 年生や 5 年生と定期的に交流している。また、ほぼ同じ学校区内にある、七二会中学校の生徒も職場体験などで来園し

子どもたちとふれあっている。

現在、当園には1歳児5名のほし組、2歳児6名のつき組、3歳児9名・4歳児6名・5歳児6名のそら組の三つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された令和元年度「全体的な計画(保育課程)」の二つの「保育方針」に掲げた「一人一人の気持ちを大切にしながら、様々な活動を通して心が豊かに育つように保育します」「豊かな自然を生かし、散歩、運動を通して丈夫な体を作ります」の実現に向けて、子どもの発達の特性や発達過程を理解し、その発達及び生活の連続性にも配慮しつつ子どもたちと生活や遊びを共にしている。過疎化とはいうものの、地域の人々の子どもたちに寄せる期待は大きく、子どもたちは、恵まれた自然、豊かな風土、人情味あふれる人々などをバックグラウンドに生活体験をはじめとした様々な活動を行っている。

また、当園には長野市が運営している七つの地域子育て支援センターの一つが園の建物の一角にあり、主に就園前の子どもとその保護者が気軽に遊べ、交流したり、子育ての情報交換をしたり、常駐の職員が子育てに関する相談にのるほか、各種講座なども開催し、地域の子育てネットワークの中心となって子育て応援をしている。いつでも受け入れが可能となっており、現在、一日平均、7～8組前後の利用があり、地区外からの利用も多く人気のスポットとなっている。

また、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するための長時間保育や一時預かり、障がい児保育等を実施している。長時間保育は短時間保育利用者も時間外保育を必要とする際に利用できるサービスで、標準時間保育と合わせると半数近くの子ども達が利用している。一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じ子どもを受け入れている。障がい児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容で当園ではバリアフリー化が進められており障がい児用のトイレも設置している。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しののキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2019年度から2021年度までの中期計画として、長野県自然型保育(信州やまほいく)の充実、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ることなどに積極的に取り組んでいる。また、職員は、当園の事業計画のうちの重点課題、「保育内容の充実」として自然を生かした保育により豊かな感性を育むこと、地域資源と人材を生かした保育により社会力の基礎を育てること、異年齢保育の充実により社会生活において望ましい生活習慣や態度を育成すること、小学校との連携の推進により小学校における子どもの育ちを支えること等を掲げ、教育・保育が子どもたちの生涯にわたる人格形成の基礎を養う大切なものであることを職員一人ひとりが認識し、自らの資質向上及び当保育園全体の専門性の向上に取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) 身近な自然を取れ入れた豊かな感性と表現の追求

当保育園は平成30年10月に「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在2年目に入っている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰで『育ちを豊かにする』教育活動の推進と掲げ、その1の「自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」とし、また、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」としており、当保育園ではそれらを実践している。

当保育園の東側には野球場1面、テニスコート1面、ゲートボールコート1面などがある七二

会運動場があり、運動場の周辺部には桜やイチヨウの木が繁り、カマキリやバッタなどが棲み、トンボや蝶なども飛び交い、季節の山野草などが育っている。

また、園舎のまわりには立派な畑があり、園庭の一角にはプランターもあり、地域の老人クラブ「長生会」のお年寄りの指導を受けながらサツマイモ、オクラ、ナス、キュウリ、ミニトマト、ニンジン、カボチャ、シソ、ローズマリー、マコモダケなどを栽培し、その生長を観察し、収穫したものを給食食材として使用するなど、「食」の大切さを学んでいる。

更に、子どもたちは園舎内でカメ、スズムシ、ザリガニ、カブトムシなどを飼育し、特に、地域の住民からいただいたカイコやアゲハチョウの幼虫などを保護者の協力を得ながら桑や香草などを給餌し、透明の飼育箱から繰り返す脱皮や羽化の様子を子どもと保護者、職員ともども観察し、その成長を喜び合っている。

また、園の周りの天然の植物を染料にして染める「草木染め」についても、年長の子どもを主として取り組んでおり、藍、マリーゴールド、シソ、ハックルベリーなどを使い、藍色、黄色、ピンクなど、さまざまな色を染めて楽しんでいる。染める過程で木綿の布に色を定着させるのには何が良いのかクエン酸などの触媒についても子どもたちが色々試し発色の良いものを選ぶように成功体験から次のステップへと進んでいる。更に、年中児が運動会で発表するダンスに「ギターやマイクスタンドがあったらいいな」と発案したことから、周りの木々の枯れ枝を集め自分たちで作ろうとし、年長児も自然に手伝っている姿をみることもできた。

当保育園の全体的な計画(保育課程)でも教育面の「環境」、「表現」で「身近な動植物に興味関心を持ち関わり自分なりに比べたり、関連づけながら工夫して遊ぶ」、「様々な素材や用具、表現方法に関心を持つ」としており、心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもてるようにしている。

2) 異年齢での交流

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰで『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その3の「人との関わりと表現力を養う活動の充実」として取組の方向性を掲げ「自分とは異なる思いを持つ友達の存在に気付き、人には違いがあり、違って良いと理解する心の育成と使って体験ができる環境を整える」と目指す内容も示しており、当保育園ではそれらを実践している。

当保育園の今年度の事業計画の中の重点課題でも「保育内容の充実」として「異年齢保育を充実させる」と掲げており、1歳児5名のほし組、2歳児6名のつき組、3歳児9名・4歳児6名・5歳児6名のそら組の三つのクラスがあり、当園の規模を最大限に活かし、未満児については保育士等の仲立ちにより、他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけ、生活や遊びの中で、年長児や保育士等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりしている。また、年少・年中・年長児については友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合い、自分の思ったことを相手に伝え相手の思っていることに気付いたり、友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさも味わい、友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりしている。

当保育園ではクラスは同じでも、年齢が分かるように年齢別の日よけのついたカラー帽子を着帽しており、年少、年中、年長のそれぞれの年齢で保育を行う際には、それぞれ年長児9名と年中児6名、年少児6名に分かれるので、規模的に理想的な編成であると思われ、同年齢で助け合い、協力し、競い合うといった、家庭ではできない経験ができ、その年齢で身につけるべき「しつけ」や基本的な生活習慣も同じ年齢の子ども達と共に学ぶことで出来ている。

子どもは自分よりもできないことが多い年下の子どもに対して、何かを教えようとしたり、危険から守ろうとしたりするという。また、自分が遊びたい気持ちを我慢して年下の子におもちゃを譲ったりする子どももあり、そうした行為を大人に褒められれば、それが自信や自己肯定感につながるとも言われている。当保育園でも各クラスの遊びが年長児から年中児、更に、年少児へと自然に伝わり、みんなが楽しく遊ぶためにルールや役割分担が自然に生まれており、年下の子どもは年上の子どもに刺激を受けて興味や関心の幅を広げており、よいことや悪いことがあることに気付き、友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、友達との関わりを深め、思いやりの心も育んでいる。

核家族化が進み、当保育園のある七二会地区でも世帯数が715世帯と10年前のほぼ85%となっており同居人数も減っている。近所付きあいも減る傾向にあり、日常生活において年齢の異なる

子ども同士が自然に関わる機会も減っているものと思われる。このような状況下において、年上や年下の子ども同士を1クラスにまとめて行う混合保育や異年齢の子ども同士が関わることで多様な仲間関係や自我の発達にプラスになっており、当保育園は子どもたちが年齢の垣根を越えて交流できる貴重な場となっており、職員は年長児に対して、助けを必要としている年少児へのお手伝いを頼むなど、異年齢の子ども同士がかかわりを持てるよう、またかかわりを楽しめるように働きかけている。

3) 子ども達の探求心を育む日課の工夫

当保育園では子ども達が好奇心を広げ、次にそれが探求心へと育っていくように「じっくりと取り組む」日課を工夫し、訪問調査日も「草木染め」に興じ、手を植物の色だらけにしている子どもたちの姿が見られ、職員も一緒になって色を出すための作業に手を貸していた。特に、年長児はすでに何回か挑戦しており、藍、マリーゴールド、シソ、ハックルベリーなどから何色が抽出できるかを覚えており、自分から発案したことを職員に話したり、図鑑などを調べ新たな挑戦をし、成功体験や失敗体験をしている。

どうすれば、自分の願うように出来るだろうか、次にはどうなるのだろうか、その仕組みを教えてくださいものがどこかにないだろうか、そうした過程を経て子どもたちの興味は次第に知的なものへと育っていくと言われている。染色には、染める植物を決める、材料と道具を用意する、材料を煮出して染液をつくる、木綿の布をお湯で煮る、染液に布を入れて煮る、クエン酸などの液に漬ける、陰干しして完成という過程があり、子ども達は根気よくそれを行っている。当保育園では二段、三段と子どもの探求が進むところで探求心が湧き出てくる、もっと知りたいと思って、もっと追求してみるなど、確かにもっと面白くなっていくという体験を職員が後押ししている。

自分の力を発揮し、どうやったら深められるかを工夫して、その先の広がりをものにしていく、物事のさらに奥を知りたいという気持ちは、表面的に満足するのではなく、その先を実際に探求することによって育っていくものと思われる。保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがあるといわれ、保育園はこうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならないとされている。

当保育園は公立保育園であるため、市が準備した様々な日課や手順が確立されており、それにより一定水準の保育を提供している。そうした中、当保育園では子ども達が「じっくりと取り組む」日課を工夫し、子どもの心を満たし、心身の成長に繋がる遊びには「想像力」「集中力」そしてなにより「主体性」をもって遊びこむことが大切であると考え、一人ひとりの発想によりテーマを絞り込み遊びの時間を取っている。

4) 地域の人々との交流と支援

保育園には市町村の支援を得て、地域の関係機関等との積極的な連携及び協働を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努めることが求められている。当保育園では地区の住環境が変化し過疎化が進み園児数も減少傾向にあるという地域の実状を踏まえ、子ども達の生活に関係の深い高齢者をはじめとした地域の人々などとふれあい、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人の役に立つ喜びや人と関わることの楽しさを体験している。また、日々の生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにしている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅳで『育ちを支える』家庭・地域との連携」と掲げ、その2の「地域交流活動の充実」として「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」「豊かで特色のある様々な地域資源を十分に活用し、『社会力』の基礎育成に取り組む」などの目指す内容も示しており、当保育園ではそれらを実践している。当保育園の事業計画や全体的な計画としても「地域・家庭・小学校との連携」として文書化されており、併設の高齢者を対象とした「ふれあい交流ひろば」の利用者、野菜の栽培に指導に訪れる老人クラブ「長生会」の会員、近くの小学校児童・中学校生徒、ボランティア、また、同じく併設の地域子育て支援センターに来る親子など、様々な人々とふれあうことができるようにしている。

園を中心とした、公園やグラウンド、お寺、神社などの散歩コースがあり、午前中に散歩に出掛け、地域の人々に挨拶をしたり、地区の運動会や文化祭に職員とともに参加するなど、大人との関わりもできるようにしている。小学校の運動会への参加・一日入学、中学生の職場体験学習の受け入れなども実施されている。世代間交流ということで併設の「ふれあい交流ひろば」の利用者とほぼ毎月交流し、歌、ダンス、手遊び、体操などを披露する機会も持たれている。子どもたちは幅広く地域の人々とふれあう中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、思いやりの心を育てている。

◇改善する必要があると思う点

1) 防災への更なる取り組み

当保育園には公立保育園統一の「危機管理マニュアル」があり、各種災害対応フローによる実行体制が組まれている。当保育園のある地区は土砂災害警戒区域（イエローゾーン）になっているため土砂災害避難訓練を行い、避難場所である「土尻川砂防事務所」との連携をとっている。当保育園の事務所内には、非常時持ち出しリュックがあり責任者は園長、管理は主任でリストに従い定期的に補充・入れ替えをしている。「園児緊急連絡カード」「災害時引渡し確認表」なども作成し、緊急時には職員参集メールや緊急連絡網で安否確認を行い人員確保につなげたりしている。

また、当保育園では年2回の総合的な消火訓練と年1回の通報訓練を実施しており、そのほかに想定を変えた避難訓練を毎月実施し、不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備え必要な対策も取っている。災害時には子どもの安全を確保するため、市支所や駐在所、消防署、保護者等、関係者に協力いただきながら必要な対策を講じている。消防署へは消防計画・避難訓練年間計画・自衛消防訓練通知書を提出し、11月には消防署員立会のもとで訓練を行なう計画になっている。

今後、保育中に直下型地震や台風、水害なども考えられることからどう対応するのか幾つかシミュレーションをし、更に備えられることも重要ではないかと思われ、地域のハザードマップについても危険度が色分けされて表示され、子ども達にとって視覚的に見やすいことから園の避難計画にも役立て、地震の際の倒壊危険度や洪水時の予想浸水などに沿い、園の避難計画にも更に活かされていくことを期待したい。

2) 保護者の要望・意見等の更なる反映

当保育園では個別懇談会を年2回担任が行い、年1回のクラス懇談会には園長と担任が出席し、年2回の保護者総会や随時開催の保護者役員会には園長と主任が出席し、意見や要望を集約している。また、保護者に伝えきれない部分を見ていただくために「保育参加」等の取り組みも行っている。

利用者満足度に関する保護者アンケートも実施し出された意見・要望については職員会で集計結果を分析・検討し、「保護者アンケート集計結果」に改善策を載せ、フィードバックするようにし、それに基づいて支援内容の反省・改善へと繋げている。

当保育園では「苦情解決の仕組み」も掲示し、意見箱も設置し、全家庭に配布をしている「入園説明会資料」や「4月の園だより」でその主旨を周知している。送迎時、入口のフェンス前や玄関に園長・主任が立ち、また、クラス担任が引き渡し時に子ども達の日々の様子の伝達や情報収集、保育所保育の意図の説明などを行い、保護者との相互理解を図るよう努めている。

また、おたより帳、クラスだより等でも「心配なこと等ありましたら誰にでも声を掛けて下さい」と伝えおり、すぐに取り組める意見は直ちに改善に向け取り組み、時間がかかりそうな事案についても職員会等で検討し必ず保護者に報告している。

保育活動に対する保護者の積極的な参加は、保護者の子育てを自ら実践する力の向上に寄与することから、これを促すことが求められている。保護者と正面から向き合い、コミュニケーションが深まっていくよう、更に、さまざまな取り組みをされていくことに期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和元年 10月21日記載）

初めて第三者評価を受けさせていただきました。保育、保護者の方や地域の方とのつながり等について見直す良い機会となり、本園の良いと思われる点や課題について明確にすることができました。

「身近な自然を取り入れた豊かな感性と表現の追及」「異年齢での交流」「子ども達の探求心を育む日課の工夫」「地域の人々との交流と支援」について、良い点としてあげていただいたことに対し継続していきたいと思います。改善する必要があると思う点として指摘を受けた「防災への更なる取り組み」について、避難訓練計画を見直し、様々な災害にどう対応するかシミュレーションをし、具体的な手順や役割分担、保護者への連絡方法などを確認し、保護者の方、地域の方、関係機関とも相談、共有しながら避難訓練に取り組んでいきます。「保護者の要望・意見等の更なる反映」については、保護者の気持ちに寄り添い、保護者と保育園が協力し合って子ども達を育てていけるよう研鑽をしていきたいと考えます。

評価調査者の皆様には、ご指導ご助言をいただきましたこと感謝申し上げます。